

機関番号： 32607

研究種目： 若手研究 (B)

研究期間： 2008 ~ 2010

課題番号： 20720078

研究課題名 (和文) 19 世紀末小説の中の音楽に関する主題の分析

研究課題名 (英文) An Analysis of the Representation of Music in the *Fin-de-Siècle* Novel

研究代表者

吉田 朱美 (YOSHIDA AKEMI)

北里大学・一般教育部・講師

研究者番号： 30406889

研究成果の概要 (和文)：19 世紀末小説中の音楽的な主題の機能や象徴的意味について考察した。社会的・文化的な「過渡期」という意識が人々の心を占めていた世紀末期、リアリズムの枠を越えた文体の創出や、新しい時代の感性や主体を表現する方法の可能性を探る小説家たちが音楽という別の芸術ジャンルをいかに模倣し、自らの散文の中に織り込んでいったかを分析した。

研究成果の概要 (英文) By analyzing the functions and the symbolical meanings of musical motifs that appear in novels written in English around the turn of the nineteenth century, I have explored, how, in the *fin-de-siècle* period, when people had an awareness that they are going through social and cultural transition, the idea of music was resorted to, and exploited, in the creation of new, innovative prosaic styles for expressing unconventional feelings, emotions and subjectivity of this era.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	400,000	120,000	520,000
2009 年度	300,000	90,000	390,000
2010 年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1,040,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米文学・英語圏文学

キーワード：世紀末、ジェンダー、新しい女

1. 研究開始当初の背景

19 世紀小説の中の音楽をめぐる歴史的な研究は海外においても 2000 年頃から盛んになってきているが、比較的新しい分野であるということができ、新たな貢献を行うことは十分に可能であると考えた。

たとえば New woman writer の一人として近年再評価が進められている George Egerton の最初の短編集 *Keynotes* (1893)、続いて出された Egerton の他の短編集、*Discords* および *Symphonies* は、いずれも音楽用語をタイトルとし、音楽に重要な役割を与えているにも関わらず、こ

れまで音楽との関わりにおいて彼女の作品を正面からとらえた批評は見当たらなかった。

2. 研究の目的

先行研究によっていまだ十分に扱われていない 19 世紀末小説中の音楽的な主題の機能や象徴的意味を明らかにすることを目指す。

3. 研究の方法

研究対象のテキストを国内外の図書館所蔵の音楽関係の雑誌や美学・心理学の文献などと比較対照しながら分析をすすめた。

4. 研究成果

(1) British Library, Bristol 大学図書館、Glasgow 大学図書館ほか国内外の図書館で資料の閲覧・収集を行うことができた。

(2) George Moore, George Egerton, George Gissing らの作品を中心に分析し、学会口頭発表および論文の公表を行った。

2008年度の研究の中心は、英国 19 世紀末の「新しい女」を代表する一人である George Egerton の短編小説群の中で音楽や音楽的感性がどのような機能を持つものとして描かれているか、またその際どのような文体が選択され用いられているかを検討・分析することであった。Egerton の *Keynotes*, *Discords* といった短篇集は音楽用語をタイトルとし、音楽に重要な役割を与えているにも関わらず、これまで音楽とのかかわりにおいて彼女の作品を正面からとらえようとした批評がほとんど見当たらないからである。2008年7月にBristol大学図書館でEgertonの*The Wheel of God*や*Rosa Amorosa*といった文献の閲覧を行い、7月のThomas Hardy Conference、9月のThe Third International George Moore Conference、2009年3月のSound, Silence and Literature Symposiumなどの学会で同分野および近接分野の研究者たちとの意見交換の機会を持った。

Sound, Silence and Literature Symposium での口頭発表においては、Egerton の短編小説と George Moore の小説との比較分析を行った。新しい時代の行動規範を切り開いていく予言的能力を登場人物の音楽的感性と結びつけるテーマの類縁性、および共通した文体上の特徴から、この二人のアングロアイリッシュ作家のテクストが従来考えられてきた以上に相互に影響しあい、発展した可能性について検証を試みた。

2009年度は2008年度に引き続き、George Egerton の短編小説中で聴覚や音楽的感性が果たしている機能についての分析をおこない、その成果を口頭発表として報告した。またその作業と平行して、Egerton と並んで英国 19 世紀末の「新しい女」を代表する1人である Mona Caird の作品や、同時代の反フェミニズム論者による著作物の収集・分析をすすめた。

グラスゴー大学で行われた IASIL 2009年度学会における発表では、聴覚を中心とした身体感覚や音の動きをたどる Egerton の語り、教会や国家など人工的・文化的に構築された制度により磨耗させられた人間本来の共感能力をどのように回復しようとしているかについて論じた。社会・文化を超越した身体的・感覚的な体験の共有性を重視する Egerton の姿勢に関しては、従来主にセクシュアリティや肉体の解放といった面から論じられ、また本質主義的であり優生学的な面もあるとの批判がなされてきたが、本発表においては、音楽的感受性や聴覚を通じた痛みの共有による共感能力の再生という面から短篇集 *Symphonies* の肯定的な評価を試みた。9月にアイルランドで出席した「アイルランドと世紀末」学会では、George Egerton および George Moore にそれぞれ一つのパネルが割り当てられており、これらの作家が世紀末文化研究の場において重要な位置を占めていることを再確認することができた。

2010年度には応募時の計画にもとづき、2011年3月にYork大学で開催された第4回国際ギッシング学会において、George Gissing の小説 *Thyrza* (1887) および *A Life's Morning* (1888) に描かれる女性の歌い手たちについての分析に焦点を当てた発表をおこなった。ショーペンハウアーやコントなど、

ギッシングに深い影響を与えた同時代人たちの思想に言及しつつ、*Thyrza*の女性主人公サーザのもつ音楽的才能には、従来の批評でいわれてきたよりも過激で革新的な要素があること、それによって彼女が、世紀末の「新しい女」の系譜に属するとみなされうることを論じ、George EgertonやKate Chopinらの作品に描かれる美的感性に富んだ女性登場人物たちとサーザとの間に見られる共通点を指摘した。今回の学会のテーマが「ギッシングにおける芸術と芸術家」であったことから、同様の関心をもつ各国の研究者と、ギッシングの作品に登場する女性音楽家の身体の描かれ方に関して有意義な意見交換の機会を持つことができた。

また、2010年5月に東京大学で開催された“Digital Romanticisms”学会では、映画『永遠のマリア・カラス』を題材に、この作品中にあらわれるさまざまな声や音楽、機械と身体をめぐるモチーフがどのような形でE.T.A. ホフマンなどのロマン派作家の系譜を汲みながら、現代的な要素を取り入れて発展したものであるかについて論じた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

Akemi Yoshida. The Complex Problem of a Woman Violinist in George Gissing's *The Whirlpool*. 『北里大学一般教育紀要』第14号、pp.41-57.

[学会発表] (計5件)

Akemi Yoshida. “Women Singers in Gissing’s Novels: Thyrza Trent and Beatrice Redwing.” The Fourth International George Gissing Conference, “Gissing’s World within the World: Art and the Artist.” March 2011. ヨーク大学

Akemi Yoshida. “Voice and Presence in *Callas Forever*.” Digital Romanticisms, May 2010. 東京大学

Akemi Yoshida. “Quests for the ‘Primitive’ Human Nature in George Moore’s *The*

Lake (1905) and George Egerton’s ‘At the Heart of the Apple’ (1897)” The Fourth International George Moore Conference: George Moore and ‘the Discovery of Human Nature’, March 2010. アルメリア大学

Akemi Yoshida. “Establishing a Sympathetic Community across Cultures: Cosmopolitanism in George Egerton’s Short Stories.”

IASIL 2009: “Irish Literatures: World Perspectives”, July 2009. グラスゴー大学

Akemi Yoshida. “Musical Narrative Styles and Musical Motifs in George Egerton’s *Symphonies* (1897) and George Moore’s *The Lake* (1905).”

Sound, Silence and Literature Symposium, February 2009. 南洋工科大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 朱美 (AKEMI YOSHIDA)

北里大学・一般教育部・講師

研究者番号：30406889

(2) 研究分担者

なし

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし

研究者番号：